

新

事書字の
上
の
長
母
止

旅の空に雲に心か定まらずに幾時か
こゝまするに心は不物にのせ
涙はせしきまきん
早く早く手紙に書く事おこす
神に祈るなりませ

たうまさんが何程の手紙もとに物残
全部御事
後御知事
御度

曲原具あり寄子其うやう御事
了は別台御手紙で御事致しませ
右の御事配は早車御事
ま

当地の分が
少一セ
たおのち地とて

子供等が皆ほのろかに
定て一命に仕るも
何と云はんか
御事
早と申知事
早と申知事

御事
早と申知事
早と申知事

或は金額全部を扱へ、御送らる額を

四五百兩は地代支拂として二田河内へ入寄し

廿萬一割限の支拂はぬとアツルヒスとして支拂

し ^{五百兩} 申すも失ふるにたるまきかゝる中

御元々の母に存しませうが是れ共 ^{西急} 願ひませう

同様にマヤマヤツカウエトは何程あるか

御知のせも破産 ^取 判のおツス仲の物

も取ら守や度存りませうが何とか良いら法は

ありませんが是れ共御教へても願ひませう

ワラヒイキツ ^{ワラヒイキツ} 早キエをセシター ^{早キエをセシター} 品年事年

おりのせをせしター ^{おりのせをせしター} 年余仲たれぬお地の

書取のしと ^{書取のしと} 思ふ御旨行せし ^{思ふ御旨行せし} 毎年の働ませ

ついで砂防 ^{ついで砂防} せし ^{せし} 丹 ^丹 せし ^{せし} 丹 ^丹 せし ^{せし}

事知の事 ^{事知の事} うん ^{うん} せし ^{せし} 丹 ^丹 せし ^{せし} 丹 ^丹 せし ^{せし}

そのはあたはたのちらふやうに法をうたへて
アラスカよりユラガミツヤトの所へつたあふから河野の奥へつたあふ

昔は合はるるにサークワヤの島に積んだいもちうも河野
ひしよとと思ふます一其の奥も貝とめほうあはるるまよりつたあ

ふうてちうまうから狂其の上る事は百々ふりて下
りますから決して遠慮さすに請わし下さい

！ 曲長自らのライト シムにゆくと 曲かぬとは何等の

曲長其の九關係あり 積込狂其の多いナシいと

ニヤこととはくらへぬあさうまきんから狂其もか

まわすか どうか なたたりの 曲長其を 下して下さい

なたたりの 狂其や 信 狂して 下ります

予し なたたりの 曲長其を 下して下さいとは 確信

しとお 狂其を 下さい ち北も 鉄道す 方を 下さい

狂る 狂其も 下さい 下さい 狂其の 要 狂其して

を 下さい

なたたりの 狂其は 決して 下りません どうか 狂其早
く 平水の日 雨は 同にかい 狂其を 下さい 狂其祈

を 下ります

(狂其の 狂其に 狂其に 狂其に 狂其に 狂其に 狂其に)

農具の準備等については、
(このリースカウトまでへ)

物共も既に二季放浪生活をめまゆりし、せむしある

金をたのみ、ましては上同ト途を共にせよ、お水す、固を

止を待す、馴れな、昔、お水をせよ、お水す、固を

止を待す、馴れな、昔、お水をせよ、お水す、固を

止を待す、馴れな、昔、お水をせよ、お水す、固を

止を待す、馴れな、昔、お水をせよ、お水す、固を

止を待す、馴れな、昔、お水をせよ、お水す、固を

止を待す、馴れな、昔、お水をせよ、お水す、固を

止を待す、馴れな、昔、お水をせよ、お水す、固を

止を待す、馴れな、昔、お水をせよ、お水す、固を

止を待す、馴れな、昔、お水をせよ、お水す、固を

止を待す、馴れな、昔、お水をせよ、お水す、固を

止を待す、馴れな、昔、お水をせよ、お水す、固を

止を待す、馴れな、昔、お水をせよ、お水す、固を

止を待す、馴れな、昔、お水をせよ、お水す、固を

止を待す、馴れな、昔、お水をせよ、お水す、固を

止を待す、馴れな、昔、お水をせよ、お水す、固を

止を待す、馴れな、昔、お水をせよ、お水す、固を

ミスター ビックマンへ (甚是に御礼)

貴業開始致し申すに 是れ 貴業の必要と申す事
因て 取立せたいので 其仕事を マネン 君に 托し ます
即ち 後より 上に あなたに 援助し ます 出来ませぬから
は 貴業中 には 迂回 することも 同氏が 為ら ましたら 是れ 拍頭
を 託し ます

私の 貴業 具の リース 葉上 申す 申し 詰私のラ
ンチの ニュートン 格納 して 置たいです 其内 土地
の 貸借に 申すに 申し あります 除く こと 毎論 申
す あります

山 山 ショウ 申す 何れ 何れ 何れ 何れ 何れ 何れ
申す から 申し 申し 申し 申し 申し 申し 申し 申し 申し 申し
に 済たう 免申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す

根は 交際を 託し ます
スカット さん は 是れ 用たし 煙草 居られ ませぬ 何れ 何れ 何れ
申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す

致し ます
申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す

申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す
申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す

と思はれまする。世來るからまぬにまぬも石川能ふら一月
一杯に^{いんげん}送物とくことを念致して居ります。はな時期を後
水とて^{いんげん}送るもの世來るに^{たのしみ}たのしみとせしめます。

何れマネ左シカかをことと念致しを^{たのしみ}たのしみとせしめます。はな時期を後
送れる^{いんげん}送物とくことを念致して居ります。はな時期を後
又ハニ軸

ユバキユバキ^{いんげん}送物とくことを念致して居ります。はな時期を後
トーサンとてある^{いんげん}送物とくことを念致して居ります。はな時期を後
ウララシイ^{いんげん}送物とくことを念致して居ります。はな時期を後
セントル^{いんげん}送物とくことを念致して居ります。はな時期を後
ハルル^{いんげん}送物とくことを念致して居ります。はな時期を後

James Duff - Mrs. J. Duff
No. 100 - 101 - 102 - 103 - 104 - 105 - 106 - 107 - 108 - 109 - 110 - 111 - 112 - 113 - 114 - 115 - 116 - 117 - 118 - 119 - 120 - 121 - 122 - 123 - 124 - 125 - 126 - 127 - 128 - 129 - 130 - 131 - 132 - 133 - 134 - 135 - 136 - 137 - 138 - 139 - 140 - 141 - 142 - 143 - 144 - 145 - 146 - 147 - 148 - 149 - 150 - 151 - 152 - 153 - 154 - 155 - 156 - 157 - 158 - 159 - 160 - 161 - 162 - 163 - 164 - 165 - 166 - 167 - 168 - 169 - 170 - 171 - 172 - 173 - 174 - 175 - 176 - 177 - 178 - 179 - 180 - 181 - 182 - 183 - 184 - 185 - 186 - 187 - 188 - 189 - 190 - 191 - 192 - 193 - 194 - 195 - 196 - 197 - 198 - 199 - 200

同時に送る名前はエーお^{いんげん}送物とくことを念致して居ります。はな時期を後
是れ其サエ^{いんげん}送物とくことを念致して居ります。はな時期を後
三つ送る^{いんげん}送物とくことを念致して居ります。はな時期を後
ソルト^{いんげん}送物とくことを念致して居ります。はな時期を後

送る^{いんげん}送物とくことを念致して居ります。はな時期を後
今^{いんげん}送物とくことを念致して居ります。はな時期を後
代^{いんげん}送物とくことを念致して居ります。はな時期を後
支^{いんげん}送物とくことを念致して居ります。はな時期を後

カ^{いんげん}送物とくことを念致して居ります。はな時期を後
ナ^{いんげん}送物とくことを念致して居ります。はな時期を後
ハ^{いんげん}送物とくことを念致して居ります。はな時期を後
ニ^{いんげん}送物とくことを念致して居ります。はな時期を後
ホ^{いんげん}送物とくことを念致して居ります。はな時期を後
ヘ^{いんげん}送物とくことを念致して居ります。はな時期を後
ニ^{いんげん}送物とくことを念致して居ります。はな時期を後
ホ^{いんげん}送物とくことを念致して居ります。はな時期を後
ヘ^{いんげん}送物とくことを念致して居ります。はな時期を後
ニ^{いんげん}送物とくことを念致して居ります。はな時期を後
ホ^{いんげん}送物とくことを念致して居ります。はな時期を後
ヘ^{いんげん}送物とくことを念致して居ります。はな時期を後

第一葉の井 (支出)

一 三六千五百井

一 三千井

計 六千九百井

合計 一万四千二百井

第二葉 (収入)

一 一萬八千井

一 一萬二千五百井

計 三萬零五百井

差引 一萬五千五百井

差

アニオン十廿五英所の収復し
一英所より二百也十井 (一葉に十井と云う)

トノト一二十五英所ト英所
當り二十略收復ト略當り
六井とぬす

アニオン
英所六の。二井當り

トノト略 略 二二井當り
仙

由 三千六百井

五百井

計 四千五百井

計 一萬九千五百井

幹部(自作) 由
由 農具 使由 新

純差

アニオン十英所 (収)

アニオン十英所 (其他の所の一筆)
トメト一英所 (同様)

一筆九千拜

アニオン十英所 収
600x150

一筆九千拜

トメト一英所 二
30x225=

計 一萬八千拜

225x15= 6640
第一十五号 七
下北村

(支出)

一筆八千六百拜

アセチル 収
トメト一英所 収
アニオン 十英所 六千サツク
一サツク 四十仙の収度

一筆二千四百拜

一筆二千四百拜

トメト一英所 二
収 六千
収 六千
収 六千

計 一萬二千四百拜

差引 四千六百拜

三九

由 三筆三千六百拜

干 筆 三筆 手 筆

一筆五百拜

農具 使用 拜

計 四千六百拜

差引 一筆五百拜 収 三筆

此の計算に因り、庵付千五冊を治るすは、博令
ハ自家生計其の予て現に懐にある金を別に
七千冊の準備を要す、或は五千冊も可
なりわめざるなり

仕事に至るに、いさゝか故に、庵付の長田
一人のハシブに、さるるまで、庵付の他
を引連れ、他より御方へ、ハシブ
るは、博令の長田の御方、復命に、ハシブ
何れに、ハシブと、ハシブ

定地農耕上の事

融雪は十一月、十二月とフラットより水を引く回数を

アモンは五月始めに晝夜を別たす水を引き五月始めに水
水をやり 五月(タンク) 水への水を引く

五月半より六月始めにカトメトール修水をして終り
アモン 七月半迄にアモンの修水を終りカラヤカを

九月の始めに 西方から根切りをし 九月半より收穫

肥料問題の研究を要す

後者の化け付けの面積を 割り 第一 第二 第三 第四

固り予算を ちやまたぬ こと ちや

莫所 莫所 大田 定め 水 工 莫所 莫所 耕
あま ちや ちや ちや ちや 地 水 水 水 水 耕

化可純とら